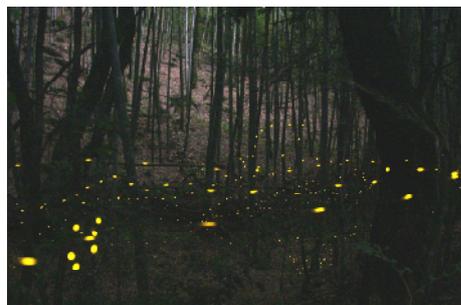


ヒメボタルの光の乱舞は夢のよう 400 人以上の市民が観賞会参加

5月30日(金)と31日(土)の夜9時から、「市民の会」は「相生山の自然を守る会」と共催で「ヒメボタル観賞会」を開きました。両日で400人以上の市民が、天白区を中心に緑区、瑞穂区、南区、昭和区などからヒメボタルを見にきました。子どもたちの参加も多く、このように美しい自然をいつまでも残していきたいと痛感しました。

相生山緑地のヒメボタルの存在は最近、広く知られるようになり、遠くから来る方もいます。夜の森は清々しく、ヒメボタルの光は神秘的です。相生山緑地を排気ガスで汚したり、騒音や振動で静かさが破られたりすることが無いように、光の饗宴がいつまでも続くように、市民の力で相生の森を守りましょう！



もし、弥富相生山線が出来たら、1日1万台を超える車が相生山緑地を抜けて、瑞穂区を通過します。だから瑞穂区の市民からも不安の声が出ています。

5月31日、「市民の会」は瑞穂区の弥富・中根学区の市民との懇談会を開きました。スライドを使って交通問題を説明しましたが、参加者からは交通量が増えることによる新たな渋滞や通学路の危険性などの心配の声が上がりました。同時に相生山緑地の自然を守りたいとの意見も多くありました。

「市民の会」と瑞穂区の市民は瑞穂区選出で前土木交通委員の藤田和秀議員と弥富相生山線建設問題について数日前に懇談したので、その報告もありました。

瑞穂区の方たちは懇談会終了後、ヒメボタルを観賞しました。

弥富

の環境

への

影響

は瑞穂

区で

大きい

下山畑で道路は終わりに！

6月30日、「市民3分間議会演説」で野並の外波山さんが「中断中の市道弥富相生山線のすぐ近くに住んで思うこと」を「土木交通委員会」でスピーチしました。

「タヌキが現れ、オオタカが舞う緑地を守ってほしい、建設途中のシェルターは学童の自然学習の場希少生物の資料展示場として有効利用。自然を守ったモニュメントとして残せば良い」と訴えました。「市道弥富相生山線は下山畑を終点にしたらどうでしょうか」という提案で締めくくりました。訴える力の強い3分間演説でした。

緑政土木局道路建設課と懇談

「市民の会」は「市道弥富相生山線」に関して、名古屋市に「公開質問状」を折々に提出しています。それ以外に、当局との懇談を行っています。

職員の異動があり、緑政土木は局長以下、大きく移動がありました。それでお互いを知るためにも5月に懇談。6月にも懇談をしました。

「住民意向調査検討委員会」の会議の様子は公開されてないし、市民不在のまま、進展もはかばかしくありません。マスコミもこの問題を取りあげることが少なくなっています。情報を市民の皆様と共有するためにも当局との意見交換をこれからも続けていくつもりです。